

深く狭くに徹した試験勉強を  
—「練習、練習、また練習」もお忘れなく—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q : 学年末試験や2月、3月に行われる入学試験の直前は、どのようなことに注意を払ったらよいですか。

A : (林 明夫。以下略)かぜを引いたりインフルエンザにかかったりしないことが最も大切です。口を介してウィルスを体内に入れないために、外から帰ったら「2回のうがい」と「薬用せっけんを使った30秒間の手洗い」を確実に行ってください。また、たとえば首の周辺をスカーフやタオルで巻くなどして、身体が冷えないような工夫を自分の力でしてみましょう。医師とよく相談の上で、今からでもインフルエンザの予防接種をすることもお勧めします。

体調が崩れたときは、思い切って2～3日休むことも大切です。判断を誤らないことも、能力の1つです。

Q : よく分かりました。ところで、表題の「深く狭くに徹した試験勉強を」とは、どうすることですか。

A : 学校で使っている教科書や授業中にとったノートブックの試験範囲内の内容を、何回も何回も勉強し直して、どの科目も隅(すみ)から隅まで一語残らず徹底的に覚え込むことです。大切なことは、①「口をついてスラスラ正確に言えるようにすること。」②「何も見ずに楷書(かいしょ)で正確に書けるようにすること。」③「簡単な問題は、問題を見た瞬間に条件反射で答えが出るまでにしておくこと。」です。

Q : 「うん、なるほど」と一度「理解」したことを「定着」させる、そして、そのために「定着のための作業」をするということですね。

A : その通りです。だんだんと開倫塾の「学習の3段階理論」が分かってきましたね。

Q : 「定着」させるためには、「練習、練習、また練習」が必要なのですね。

A : その通りです。テスト範囲として示された教科書やノートブックの内容を何十回も声に出して読み、何も見ないで正確に言えるまでにするのも「練習」です。何も見ないで「楷書」で正確に書けるまでにするのも「練習」です。教科書に出ている問題を最低でも2回、できれば5～6回やり直し、問題を見た瞬間に答えが出せるまでにするのも「練習」です。

そこまでできたら、教科書準拠の問題集や開倫塾のテキスト、予想問題集をていねいに解きます。これもまた「練習」です。「うん、なるほど」と一度「理解」したことを、先ほど示した①～③の「定着のための作業」をして正確に身に付けた上で、基本的な問題を使って「練習、練習、また練習」を繰り返すこと。その間も、教科書やノートブックを何十回、何百回も繰り返し繰り返し、大きな声で音読し続けること。これが、27年前に開倫塾を創業して以来ずっとお勧めしてきた「深く狭くに徹した試験勉強」の方法です。

**Q：問題練習をしている際に間違えた問題はどうすればよいのですか。**

**A：**間違えた問題の問題番号の上に自分で決めた印をつけておき、「間違いノート」に書き直しましょう。そのとき、「間違いノート」には問題もいっしょに書いておくこと。一度した間違いは二度としないように、何回も何回も書き直し、問題といっしょに正解も覚えてしまうことです。

学校の教科書や開倫塾の教材に答えを書き込むと、この作業はできませんから、教材には絶対に答え書き込まないようにしましょう。

学年末テストは範囲が広いですから、この文章を読んで「うん、なるほど。やらなければ。」と「自覚」した人は、今日からでもスタートしてください。

**Q：受験生に一言どうぞ。**

**A：**とにかく、かぜやインフルエンザにかからないこと。そのためにも外から帰ったら「2回のうがい」と「30秒間の手洗い」を必ず行ってください。

「眠っている時間以外は勉強する」くらいの気構えで、毎日を過ごすこと。くよくよ悩んでいる暇(ひま)があったら、偏差値 60 以下の科目は「定着のための作業の①～③」を繰り返すこと。偏差値 60 以上の科目は、過去問や予想問題を一問でも多く研究することです。

どうしてもマンガを読みたい人は、「ドラゴン桜(ざくら)」全 11 巻を買いそろえ、我が身と同じとかみしめながら少しずつ読み、参考にするとよいでしょう。

**Q：えっ、受験前に「ドラゴン桜」などを読んでいてもよいのですか。**

**A：**読んでいない人は読んだ方がよいと私は思います。東京大学の入試を知り抜いた河合塾の指導で書かれた、最も効率的な勉強方法の参考書と言えます。受験生でありながら受験生としての「自覚」が足りないと、自分で感じている人は必読です。

では、体に気をつけて頑張ってください。